

大阪ガス都市開発プライベートリート投資法人 運用資産規模500億円到達および GRESBリアルエステイト評価への初参加について

大阪ガス都市開発株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:橋口 博一、以下「大阪ガス都市開発」)の100%子会社である大阪ガス都市開発アセットマネジメント株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:岡本明)が運用する私募リート「大阪ガス都市開発プライベートリート投資法人(以下、「本投資法人」)」は、2026年8月4日付で運用資産額が500億円に到達いたしました。

また、本投資法人は2026年にGRESBリアルエステイト評価へ初参加し、「1スター」を取得しましたことを、あわせてお知らせいたします。

【主な運用資産】



【GRESBリアルエステイト評価】



■本投資法人の運用経緯・環境への取り組み

本投資法人は、大阪ガス都市開発が近畿圏・首都圏で開発する賃貸住宅「URBANEX(アーバネックス)」シリーズを主な投資対象とし、2023年9月の運用開始以来、毎年の着実な運用資産の積み上げにより運用資産規模は502億円(32物件)に到達しました。

また、Daigasグループが掲げる「ミライ価値の共創」、「企業グループとしてのステージ向上」の実現ならびに、ESG経営の推進を通じた持続可能な社会への貢献を目指し、本投資法人はDBJ Green Building認証およびCASBEE不動産評価認証の取得を進めるなど、環境・社会に配慮した不動産運用に取り組んでいます。これらに加えて、2026年はGRESBリアルエステイト評価に初参加し、総合スコアのグローバル順位により5段階で格付けされるGRESBレーティングにおいて「1スター」を取得いたしました。

今後も優良な賃貸住宅を中心とした運用資産の拡充を図るとともに、サステナビリティへの取り組みに努めてまいります。

■GRESBについて

GRESBは、不動産会社・ファンドのサステナビリティ配慮を測る年次のベンチマーク評価およびそれを運営する組織の名称であり、責任投資原則(PRI)を主導した欧州の主要年金基金グループを中心に2009年に創設されました。

GRESBリアルエステイト評価は、個々の不動産を対象としたものではなく、不動産会社やファンド単位のサステナビリティへの取り組みを総合的に評価することが特徴です。

投資先の選定や投資先との対話にGRESBデータを活用する投資家メンバーは、現在約150機関に上り、日本でも、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)をはじめ、複数の機関がGRESB評価結果を利用しています。2025年に実施されたGRESBリアルエステイト評価には、世界で2,382、日本からは142の上場・非上場の不動産会社・ファンドが参加しました。なお、評価制度の詳細は、GRESB公式サイトをご覧ください。

<https://gresb.com>

【大阪ガス都市開発株式会社 会社概要】

- ・代表者:代表取締役社長 橋口 博一
- ・本社:大阪府大阪市中心区平野町4-1-2 大阪ガスビル北館8階
- ・事業内容: 不動産の開発・賃貸・分譲・管理、都市開発に関する調査・研究・企画
- ・企業ホームページ: <https://ogud.co.jp/>

【大阪ガス都市開発アセットマネジメント株式会社 会社概要】

- ・代表者:代表取締役社長 岡本 明
- ・本社:大阪府大阪市中心区高麗橋4丁目2-16
- ・事業内容:私募リートの資産運用
- ・企業ホームページ: <https://www.ogam.co.jp/>